

全国非開削普及協議会

2016 Vol.34
PRESS



会員動向

月刊推進技術 10月号 (P49)
会員動向に掲載されました



会員動向

全国非開削普及協議会（当協会）
：賛助会員、会長：岡本州雄・スピーダーレンタル（代表取締役社長）は、8月26日メルパルク東京（東京・芝公園）において第13回の定期総会と特別講演を開催した。

【会長あいさつ】

総会の冒頭、岡本会長があいさつに立ち「景気の先行きは依然として不透明な状況であるが、長引く震災復興需要やアベノミクスの継続、4年後の2020年東京オリンピック・パラリンピック開催等が今後の日本経済を下支えし景気は着実に回復傾向にある」と前置きして、市民の安全・安心を脅かす災害が頻発していることを受け「各地で局所的な集中豪雨による浸水被害や台風による洪水、地震や火山の噴火などの災害が後を絶たない状況である。これら自然災害に対して、当協議会の保有技術である環境に優しい非開削工法を社会に提案するチャンスである。高精度度コンパクト装置の小口径管推進工法、道路集水ます浸透化工法、下水道用マンホール浮上防止工法等、非開削工法の普及啓蒙活動を通じ、工事による住民への環境負担軽減や安全・安心な工法として非開削工法のさらなる普及を目指したい」とあいさつを締めくくった。

【議事】

議事では昨年度の事業報告として、下水道展16名古屋でスピーダー協会にアート工法協会を加え3団体共同出展として効率性・経渋性を追求するとともに合理的な展示で来客効果の向上に努めたこと。非開削普及工事推進部会では、全国各地を訪問し非開削技術としての推進工法を促進。道路集水ます浸透化工法EGSM工法では、採用都市の着実な増加にあり大都市である都内杉並区・世田谷区さらには兵庫県の姫路市での本格採用で今後の需要拡大に期待できるとしていること。環境保全技術普及部会では環境保全に関する技術開発の継続および新たなニーズの発掘に努めるとともに、土壤汚染技術開発の継続と放射能汚染水の処理を含めた汚水処理技術の向上に努めたことを報告。

今年度の事業計画においては、非開削普及工事推進部会では非開削技術3工法である「推進工法」「EGSM工法」「インナーウエイト工法」の受注拡大に重点を。環境保全技術普及部会においてはさらなる技術の進展と引き続き日本の環境保全に寄与できる「各種水処理技術向上」に努める方針を審議し満場一致で可決承認された。



第13回定時総会 環境負荷低減と安全・安心な非開削工法の普及を

全国非開削普及協議会



▲ 特別講演で「下請け体质（根性）から非開削工法のさらなる普及を」と今年度の方針を示した岡本会長

【特別講演】

総会終了後には当協議会設立当初からの理解者である石川和秀・全国ユーム管協会専務理事の特別講演があった。講演内容は「推進技術（業界）の次なる進化への途～下請け体质（根性）からの決別こそ明日への途～」と題し
①「下町ロケット（2015年秋TBS系放映）から感じ取るべきこととして「対等契約で提供する技術」「求められる技術・提供する技術」
②社会求める推進技術の地位を確保するには弛まぬ技術進化が必要
③次世代を担う推進技術者陣を確保・養成・充実できるか
④推進技術者の養成と技術開発に必要な資金をいかに確保するか
⑤今後のあるべき推進技術進化の方向性とは「地下掘削技術の独

自性差別化を進化させてOnly One技術として顕在化させる」「汎用技術から先鋭技術の推進に色彩を強め進展させる」「新たな事業構想を創出・発掘する」「新たな推進マーケットを創出する」

というキーワードを掲げ1時間にわたり持論を展開し、出席した協議会員らが熱心に聞き入っていた。

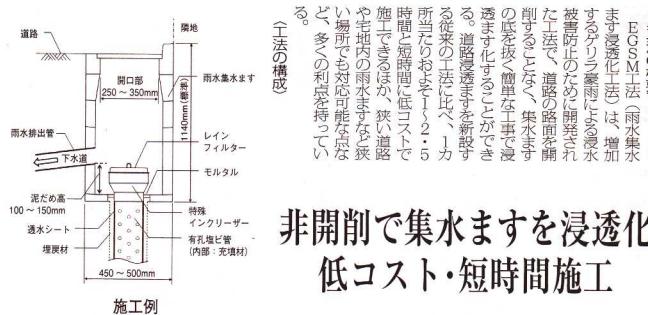
【特集企画】

平成28年（2016年）9月7日（水曜日）

環境新聞

「下水道の日」
特集

雨水貯留浸透に貢献する技術・製品



非開削で集水ますを浸透化 低成本・短時間施工

全国非開削普及協議会
EGSM工法



●雨水貯留浸透材の挿入
掘削管推進後、スクリューコンベアなどを引き抜いて掘削管の挿入および充填材の投入と共に掘削機で掘削管を撤去し、同時に隙間を充填する。
●浸透構造の構築
掘削機撤去後、浸透管上部特にインクリーザーおよびレインフィルターを取り付け、底盤の隙間をモルタルで仕上げる。
●EGSM工法の適用範囲
EGSM工法は、開口部1m×1m以下（縦幅50cm以下）への適用が可能となる。地盤水位の高さによっては設計梁板から4mまでなる。
●最大非開削推進延長は、土質により異なるが、砂質土および砂礫土（縦幅50cm以下）への適用が可能となる。

●EGSM工法の適用範囲
EGSM工法は、開口部1m×1m以下（縦幅50cm以下）への適用が可能となる。地盤水位の高さによっては設計梁板から4mまでなる。
●最大非開削推進延長は、土質により異なるが、砂質土および砂礫土（縦幅50cm以下）への適用が可能となる。

●雨水貯留浸透材の挿入
掘削管推進後、スクリューコンベアなどを引き抜いて掘削管の挿入および充填材の投入と共に掘削機で掘削管を撤去し、同時に隙間を充填する。
●浸透構造の構築
掘削機撤去後、浸透管上部特にインクリーザーおよびレインフィルターを取り付け、底盤の隙間をモルタルで仕上げる。

●雨水貯留浸透材の挿入
掘削管をセットして掘削機を挿入する。
●掘削機を挿入する。
●掘削機を挿入する。

●雨水貯留浸透材の挿入
掘削管を挿入する。
●掘削機を挿入する。

環境新聞にEGSM工法が掲載されました

読者会員登録

会員登録

会員登録